

日本語教師に求められる実践能力を規定する要因

— 「全体」「日本国内」「海外」間での比較 —

高木裕子

実践女子大学

佐藤綾

東北インターナショナルスクール

要旨：本稿では、平成 16-17 年度科学研究費補助金(B)(1)『日本語教員養成における実践能力の育成と教育実習の理念に関する調査』（課題番号：16320048 研究代表者：中川良雄）における高木班¹で実施した『日本語教師が必要とする実践能力に係る国際調査』での2つの調査の内、「日本語教師に求められる実践能力を規定する要因を明らかにするための調査」での「日本国内」と「海外」での結果をまとめたものである。「日本国内」と「海外」の分析では、「フェースシート」における「関心項目」での「1. 国別」を対象とし、それを「全体」「日本国内」「海外」に分けた上で、これら3つの間で、実践能力の要因がいかに異なるかを明らかにした。

【キーワード】 実践能力 国際調査 質問紙調査法 因子分析 日本語教師

1. はじめに

高木班は、平成 16-17 年度科学研究費補助金(B)(1)『日本語教員養成における実践能力の育成と教育実習の理念に関する調査』（課題番号：16320048 研究代表者：中川良雄）を受け、「日本語教師が必要とする実践能力に係る国際調査」を行った。この調査は大きく2つに分かれる。1つは「日本語教師に求められる実践能力を規定する要因を明らかにするための調査」であり、もう1つは「アメリカにおける日本語教師の専門性と実践能力のあり方に関する調査」²である。本稿では、この内、「日本語教師に求められる実践能力を規定する要因を明らかにするための調査」における「日本国内」と「海外」で実施した調査結果の一部をまとめる。

2. 問題の所在と研究の背景

日本語教師が必要とする実践能力を巡る国際的な調査の必要性については、まず背景の異なる学習者の属性を無視して、一律的に日本語教師に実践能力を付けさせることはできるのかという疑問があり、他方において、かねてより教育・指導を行う国の教育環境や派遣国の教育体制も考

えぬまま、実践能力を付けさせていいのかという問題があった。裏返せば、これはいかなる日本語教師に対しても、その全てに対処・対応できる実践能力というものを付けさせることはできるのかという投げかけでもある。このように考える時、本来、実践能力とは厳密に検討されるべき性質のものであったと考えるが、このような検討がされ始めたのはごく最近のことである。また、前述のように、条件の違いによって、求められる実践能力には異なりがあったはずであるのに、そのための研究もされてはこなかった。

3. 調査の目的

このようなことから、本研究では日本語教師における実践能力とは何なのかについて研究を行う。特にここでは背景の異なる学習者や国別といった諸条件の違いによって、実践能力を規定する要因がどのように異なるのかを明らかにすることを目的に、国際的な調査を行う。

4. 質問紙の作成

4-1. 質問紙での調査内容の決定

4-1-1. 調査における基本的な考え方と調査対象者

質問紙の作成では次のように考えた。「現職の日本語教師や実習修了生が自らの過去を振り返り、現在、教えている日本語教育機関で、かつ日本語学習者を対象にした場合、“あの時”の養成課程や講座・授業で、どのような内容（科目や講義を含む）を学習（または履修）しておけば、実際の授業に役立ったと思うか、また、どのような内容（科目や講義を含む）がそこに用意されていれば、実際の授業には役立つと思うか、さらに、どのような「実習」が用意されていれば良かったと思うか」である。したがって、調査対象者は、日本語教員養成課程や講座もしくはそれに等しい教育機関で、過去において「実習」を含む、日本語教員養成に係る科目や講義、授業を受けたことがある、現役の日本語教師、日本語教員、日本語指導者である。またはそれに準ずる形で日本語を教えている者である。

以下、本稿では、日本語教師、日本語教員、日本語指導者、また、それに準ずる形で日本語を教えている者を「日本語教師」と総称し、それらを調査対象者とする。

4-1-2. 質問紙での調査

質問紙は、調査対象者の属性³をはじめ、4-2. の表1に示す「関心項目」での各項目⁴を含む「フェイスシート」と、日本語教師に求められる実践能力に関する「質問票」の2種類である。

4-1-3. 「質問票」における設問項目の作成

「質問票」の設問項目は、次の(1)から(5)の手順で作成した。尚、(1)における‘内省’は「日本国内」の研究分担者4名⁵が行い、設問項目の作成にあたっては、次のことを研究分担者間での合意事項とした。自らの経験を振り返りながら、因子群の3つ「知識」「技術（能力）」及び「人間性」については、日本語教員に求められる能力であろう。しかし、調査で「人間性」

を見ることは難しい。故に、ここでは「知識」「技術（能力）」を中心に、「人間性」は間接的に見ることにする。

- (1) 各々の‘内省’結果から、日本語教師に求められる実践能力では必要だろうと思われる設問項目を出し合い、それをリスト化する。
- (2) リスト化された設問項目⁶を、因子群の「知識」と「技術（能力）」の2つに振り分ける。
- (3) 「知識」もしくは「技術（能力）」に振り分けられた設問項目を、カテゴリー別分類としての「日々の授業を行うにおいて必要な能力」、「授業外において求められる能力」、「その他」に分ける。
尚、間接的に見ようと考えた「人間性」に係る項目は、結果として「その他」に振り分けられることになった。
- (4) 提出順序や各カテゴリー別分類での設問項目数に考慮しながら、設問項目を整理する。
- (5) 設問項目を質問文の形にワーディング（wording）する。

4-1-4. 「質問票」での設問項目と実践能力との関連

ここでは現役の日本語教師が何を求めているのかを問うことによって、それを現職の日本語教師が実践能力をどう捉えているのかに置き換える。つまり、「現職の日本語教師が求めている能力＝実践能力」として捉え、その観点から結果を分析する。設問項目は各能力がどの程度必要かを問うものとし、評価は5段階とする（「4-3. 回答形式」参照）。

4-2. 「フェイスシート」と「質問票」の設問項目

諸条件の違いというものをここでは表1に示したような「関心項目」とし、それは「フェイスシート」に含めた。その上で、「知識」に関するカテゴリー設問21個（No.1～No.21）、「日々の授業を行うにおいて必要な能力」に関するカテゴリー設問12個（No.22～No.33）、「授業外において必要な能力」に関するカテゴリー設問13個（No.34～No.46）、「その他」のカテゴリーとしての設問7個（No.47～No.53）の計53個の設問項目から成る各カテゴリー別「質問票」を作成した（【巻末資料1】参照）。

「フェイスシート」での回答形式は多項選択法と自由回答法で、「質問票」での回答形式は全て多項選択法である。

表1 関心項目

No.	項 目	No.	項 目
1.	国別	5.	現在の日本語教育機関
2.	実習経験の有無	6.	対象者
3.	実習の種類と数	7.	雇用形態
4.	経験年数	8.	日本語教員養成機関

4-3. 回答形式

各設問項目に対し、「現在、教えている日本語教育機関で、以下の項目は、どの程度必要だと思いますか。当てはまると思う程度を、次の5段階で評価してください。」と問い、5段階評価（1：全く必要ではない 2：あまり必要ではない 3：わからない 4：必要である 5：非常に必要である）で回答してもらった。

尚、韓国における調査では、日本語版と韓国語版（韓国語への翻訳版）を用いた。その際、「フェイスシート」では、「関心項目」の「3. 実習の種類と数」で、「民間の日本語学校での実習」と「留学生センター（別科）での実習」について、それらがどのようなものであるかを韓国語で説明した。同様に、「5. 現在の日本語教育機関」でも「就学生」というものが韓国にはなかったため、これも韓国語で説明した。このように、各設問項目それぞれについて翻訳で解釈を加えた。これはアメリカ、ニュージーランドなどで使用した英語版でも同じことが言える。これら翻訳版は、主に海外における小学校・中学校・高等学校レベルで教えているノンネイティブの日本語教師に対し、用いられた。

4-4. 調査方法

調査の実施に先立ち、「調査への協力願い」と共に、「フェイスシート」と「質問票」から成る質問紙を渡した。配布方法は、個人的に手渡す、郵送、インターネットによる送信であった。よって、回収方法も郵便による返送、インターネットでの返信となったが、国や教育機関によっては取りまとめ代表者を置き、結果を一度取りまとめ代表者に回収してもらった後、郵送で一括して調査者へ返送してもらったものもある。これら以外は、調査者が直接、調査国もしくは調査対象教育機関先に出向き、休み時間や授業後の時間を使い、実施した。この際、調査対象者には所定の場所と時間に集まってもらい、回答してもらった。尚、調査対象者には任意で応じてもらったが、国によっては同意書をもって実施した所もある。また、IRBで‘human subject’の認証手続きを取った上、実施した所もある。この意味では国によって調査手続きと方法は違っていた。また、必要性に応じ、インタビュー調査を追加的に行った所もある。

5. 調査の実施と分析方法

5-1. 調査の実施

ここでの調査は表2のようになった。

表2 調査の実施

項目	内容
調査対象者	日本国内及び海外の現職の日本語教師と実習修了生
調査方法	質問紙調査
調査実施日	2004年8月～2005年11月末日（調査は現在も継続中）

5-2. 分析方法

結果の分析は分散分析、及び、因子分析法を用いた⁷。

6. 調査の結果

6-1. 総回答数

2005年5月時点での総回答数は382であった。内訳は日本国内が267、海外が115であった。

6-2. 「フェイスシート」における「関心項目」別での結果

6-2-1. 「関心項目」別割合

「関心項目」別の結果は次のようであった（一部延べ数）。

1. 国 別 日本 (70%) 中国 (16%) 韓国 (5%) アメリカ (4%)
タイ (3%) その他 (2%)
2. 実習経験の有無 はい (82%) いいえ (18%)
3. 実習の種類 (延べ数) 模擬授業 (30%) 日本語学校 (18%) 海外 (12%)
TA (11%) 大学 (10%) ボランティア団体 (8%)
留学生センター (7%) その他 (4%)
実習の数 1種類 (42%) 2種類 (32%) 3種類 (14%) 4種類 (10%)
5～7種類 (2%)
4. 経験年数 5～10年以下 (25%) 1～3年以下 (24%) 3～5年以下 (16%)
1年以下 (15%) 10～15年以下 (11%) 15年～ (9%)
5. 現在の日本語教育機関 (延べ数) 日本語学校 (43%) 大学 (35%)
地方自治体 (8%) ボランティア (5%) その他 (5%)
小・中・高校 (4%)
6. 対象者 (延べ数) 大学生 (27%) 就学生 (19%) 定住外国人 (13%)
専門学校生 (11%) ビジネスマン (7%) 高校生 (7%)
その他 (7%) 小学生 (3%) 中学生 (3%)
技術研修生 (3%)
7. 雇用形態 (延べ数) 非常勤 (41%) 専任 (33%) ボランティア (17%)
TA (5%) その他 (4%)
8. 日本語教員養成機関 (延べ数) 民間の養成講座 (37%) 大学 (22%)
大学院 (20%) その他 (13%) 行政主催の養成講座 (8%)

6-2-2. 有意差が認められた「関心項目」と分析対象項目

「質問票」における設問53個に対して分散分析を行った。結果、有意差があった「関心項目」は、「1. 国別」($F(4, 260)=6.39 P<.01$)、「3. 実習の種類」($F(2, 156)=5.99 P<.05$)、「5. 現在の日本語教育機関」($F(2, 156)=8.32 P<.01$)、「6. 対象者」($F(3, 208)=6.76 P<.01$)、「7. 雇

用形態」(F(2, 156)=4.31 P<.05)、「8. 日本語教員養成機関」(F(6, 364)=9.59 P<.01)であった。他方、有意差がなかったのは、「2. 実習経験の有無」「3. 実習の数」「4. 経験年数」であった。

6-2-3. 分析対象の「関心項目」－「国別」－

「3. 調査の目的」で示した「背景の異なる学習者や国別といった諸条件の違いによって、実践能力を規定する要因がどのように異なるのかを明らかにする」ためには、有意差があった「関心項目」の中から、「1. 国別」と「6. 対象者」を対象とするのが妥当と考えたが、ここでは「1. 国別」のみを分析対象とした。理由は、「1. 国別」が「関心項目」で有意差が高く、また「国別」のみが、高木(2005a, 2005b, 2006)において、カテゴリー別分類で有意差が認められた「日々の授業を行うにおいて必要な能力」の中で違いがあったからである。つまり、「日々の授業を行うにおいて必要な能力」については「国別」で捉え方が異なるという結果が出たためである。よって、ここでの結果を分析することが条件下で求められる実践能力の違いを見ることになり、他方で、考察することによって実践能力を規定する要因が明らかになるのではないかと予想した⁸。このようなことから、ここでは「1. 国別」だけを取り上げることにした⁹。

6-2-4. 結果の分析

「海外」での回答数は115であるが、これを国別に分けて見るには各々の数が少なすぎた。よって、この時点での分析方法として、また、分析の第一段階として、「国別」を「全体」「日本国内」「海外」に大別した上で、それを因子分析にかけることにした。尚、因子分析で得られた結果は、さらにカテゴリー別分類から見た「知識」「日々の授業を行うにおいて必要な能力」「授業外において求められる能力」「その他」の中で、いかに異なっていた(もしくは、ずれていた)か、また、同じであった(もしくは、重なっていた)かも見ることにした。つまり、高木(2005a, 2005b, 2006)では「日々の授業を行うにおいて必要な能力」については「国別」で捉え方が異なるという結果が出ていたわけであるから、それがどのような能力であったかを探るため、再度結果をカテゴリー別分類に当てはめて検討することにした。最後に、「日本国内」と「海外」の間で結果を比較し、改めて「全体」「日本国内」「海外」間でも比較することにした。

6-3. 「全体」の結果

6-3-1. 因子分析の結果

固有値1.0以上を基準として分析した結果、「全体」では解釈可能な12因子を抽出した(累積寄与率51.463%) (【巻末資料2】参照)。

第1因子は「学習者理解と授業工夫」、第2因子は「自分を知る・研鑽力」、第3因子は「言語に係る理論知識」、第4因子は「外国語知識と外国居住」、第5因子は「表記・音声・文法」、第6因子は「コースデザイン力と交渉力」、第7因子は「学習者に必要な項目の選択力と提示力」、第8因子は「歴史・教科・法律」、第9因子は「学習者と授業に必要な指導・情報収集・対処力」、第10因子は「異文化力」、第11因子は「自国と相手国の社会・文化理解」、第12因子は「常識」と

命名した。各 12 因子をカテゴリー別分類に当てはめた結果は、表 3 の右側ようになった。

表 3 因子と設問項目間の関係（「全体」）

因子番号	因子名	設問項目番号	カテゴリー別分類
第 1 因子	学習者理解と授業工夫	No.33・No.32・No.30・No.29・No.24・ No.28・No.23・No.25・No.35・No.22・ No.42・No.53	日々の授業/ 授業外/その他
第 2 因子	自分を知る・研鑽力	No.47・No.48・No.49・No.50	その他
第 3 因子	言語に係る理論知識	No.11・No.12・No.10・No.13・No.14	知識
第 4 因子	外国語知識と外国居住	No.52・No. 3・No.37・No.51	知識/授業外/ /その他
第 5 因子	表記・音声・文法	No.19・No.18・No.17	知識
第 6 因子	コースデザイン力と交渉力	No.16・No.36・No.34・No.15	知識/授業外
第 7 因子	学習者に必要な項目の 選択力と提示力	No.26・No.27・No.31	日々の授業
第 8 因子	歴史・教科・法律	No. 5・No. 9・No. 4・No. 8	日々の授業
第 9 因子	学習者と授業に必要な 指導・情報収集・対処力	No.40・No.41・No.39・No.38	授業外
第10因子	異文化力	No.44・No.45	授業外
第11因子	自国と相手国の社会・ 文化理解	No. 2・No. 7	知識
第12因子	常識	No.20・No.21	知識

* 「日々の授業」は「日々の授業を行うにおいて必要な能力」、「授業外」は「授業外において必要な能力」の略。

6-3-2. 結果の考察

因子分析の結果からは次のようなことが言えた。

- (1) ここで重要なのは「学習者理解と授業工夫」ということがわかった。次が「自分を知る・研鑽力」で、以下、言語、外国語・外国、表記・音声・文法に係るものというような結果となった。
- (2) 有意差のあった「日々の授業を行うにおいて必要な能力」の中で、「学習者理解と授業工夫」は第 1 因子となった。しかし、それは実際カテゴリー別分類では「日々の授業」「授業外」「その他」にまたがるものであった。次の「自分を知る・研鑽力」は「その他」に属し、これは「人間性」にも係るものと考えられた。
- (3) 有意差のあった「日々の授業を行うにおいて必要な能力」の中で、No.26・No.27・No.31 は第 7 因子の「学習者に必要な項目の選択力と提示力」として独立された。第 1 因子、第 4 因子、第 6 因子以外の因子は、設問番号での結果を見る限り、そのほとんどがカテゴリー別分類内での結果となった。この意味では異同は少なかったと言える。

6-4. 「日本国内」の結果

6-4-1. 因子分析の結果

固有値 1.0 以上を基準として分析した結果、「日本国内」では解釈可能な 11 因子を抽出した（累積寄与率 54.377%）（【巻末資料 3】参照）。

第 1 因子は「学習者中心の授業運営能力」（学習者の理解・受容・コミュニケーション、授業や教材への配慮）、第 2 因子は「授業・コース運営に関する理解」（コースデザインの知識と能力、教授法・評価法・習得に関する知識）、第 3 因子は「自分を知る」（自分のストレス耐久度・異文化適・思考、研鑽度）、第 4 因子は「外国語能力」（外国語を使う、海外居住など）、第 5 因子は「進学知識」（進学指導力、法律、教科）、第 6 因子は「教養・相手の文化理解」（一般教養・日本の文化社会、学習者の文化等の理解）、第 7 因子は「学習者能力の分析・選択」（学習者の日本語力・必要な学習項目選択・分析力）、第 8 因子は「歴史」（日本語及び日本・日本語教育での歴史）、第 9 因子は「文法・表記・音声知識」（日本語の文法・表記・音声に関する知識）、第 10 因子は「異文化力」（異文化適応・理解力）、第 11 因子は「学習者ための情報収集能力」（学習者に必要な情報収集力）と命名した。各 11 因子をカテゴリ別分類に当てはめた結果は、表 4 の右側のようになった。

表 4 因子と設問項目間の関係（「日本国内」）

因子番号	因子名	設問項目番号	カテゴリ別分類
第 1 因子	学習者中心の 授業運営能力	No.29・No.33・No.30・No.28・No.32・ No.24・No.23・No.25・No.22・No.41・ No.42・No.35・No.53	日々の授業/ 授業外/その他
第 2 因子	授業・コース運営に 関する理解	No.16・No.5・No.14・No.12・No.11・ No.34・No.10・No.36	知識/その他
第 3 因子	自分を知る	No.47・No.48・No.49・No.50	その他
第 4 因子	外国語能力	No.52・No.37・No.51・No.3	その他/授業外/ 知識
第 5 因子	進学知識	No.39・No.4・No.5・No.38・No.46	授業外/知識
第 6 因子	教養・相手の文化理解	No.7・No.20・No.13・No.2	知識
第 7 因子	学習者能力の分析・選択	No.26・No.27・No.31	日々の授業
第 8 因子	歴史	No.9・No.8	知識
第 9 因子	文法・表記・音声知識	No.17・No.19・No.18	知識
第 10 因子	異文化力	No.44・No.45	授業外
第 11 因子	学習者ための 情報収集能力	No.40	授業外

* 「日々の授業」は「日々の授業を行うにおいて必要な能力」、「授業外」は「授業外において必要な能力」の略。

6-4-2. 結果の考察

(1) 「日本国内」で第 1 因子に挙げられたものは、「日々の授業を行うにおいて必要な能力」でのものが多かったが、特にここでは「学習者中心の授業運営能力」が重要視されていることがわかった。次いで、重要とされたのは教授法、評価法、言語習得理論、コースデザインなどを含む「授業・コース運営に関する理解」という主に「知識」を必要とするものであった。

その上で、「自分を知る」、つまり、カテゴリー別分類では「その他」に属す人間性や適応性に関する事項が挙げられた。

- (2) 第4因子に含まれる設問項目を見る限り、ここで捉えられている外国というものが自身の外国語能力や知識概念であることがわかる。よって、カテゴリー別分類でも幾つかの要因にまたがっていた。尚、ここでの結果を「海外」と比較すれば、その解釈は異なっていたと言え、必要性も「海外」と比較すれば、第4因子に下がっている。ここでの結果は、国内外の違いを示したものと言えた。
- (3) 「日本国内」では就学生や留学生を対象に教えている者も多かったせいか、第5因子は進学に関するものが挙げられた。特徴的であったのは、これが法律や教科教育と共に挙げられていたことである。
- (4) 第6因子以降は自身に付いていた方がいいと思われた「知識」か、教育・指導する上で必要な項目であった。
- (5) 「日本国内」の結果は、今日、日本語教育でテーマとして挙げられているものと重複するものも多かった。

6-5. 「海外」の結果

6-5-1. 因子分析の結果

固有値 1.0 以上を基準として分析した結果、「海外」では解釈可能な 14 因子を抽出した（累積寄与率 58.633%）（【巻末資料 4】参照）。

第1因子は「海外適応能力」（外国語学習つまり自身の外国語能力や海外経験・海外知識、異文化適応能力）、第2因子は「コース設計と運営」（コースデザインを含む、選択・分析・提示能力）、第3因子は「自分を知る」（自分のストレス耐久度・異文化適・思考、研鑽度、法律知識）、第4因子は「学習者理解と対応」（学習者理解と対処）、第5因子は「授業を良くするための工夫能力」（分かり易く・面白い授業と運営、日本語力の分析と教材工夫など）、第6因子は「関係調整・指導力」（人とのコミュニケーションと進学指導）、第7因子は「教授法・評価法」（教授法・評価法に関する知識）、第8因子は「学生と授業のための情報収集能力」（学習者に必要・良い授業を行うための情報収集能力）、第9因子は「異文化理解・適応」（異文化適応・理解能力、異文化理解に関する知識）、第10因子は「音声と表記知識の応用力」（日本語の音声と表記）、第11因子は「歴史と教科教育」（教科教育と日本、日本語、日本語教育に関する歴史）、第12因子は「言語に関する知識」（言語習得・心理学・コミュニケーション）、第13因子は「文法」、第14因子は「一般・国際知識」と命名した。各 14 因子をカテゴリー別分類に当てはめた結果は、表 5 の右側のようになった。

表5 因子と設問項目間との関係（「海外」）

因子番号	因子名	設問項目番号	カテゴリ別分類
第1因子	海外適応能力	No.52・No.3・No.2・No.51・No.45・No.37・No.44・No.6・No.7	その他/知識/授業外
第2因子	コース設計と運営	No.34・No.26・No.31・No.16・No.27・No.42	授業外/日々の授業/知識
第3因子	自分を知る	No.47・No.48・No.49・No.50・No.4	その他/知識
第4因子	学習者理解と対処	No.33・No.30・No.32・No.38・No.29	日々の授業/授業外
第5因子	授業を良くするための工夫能力	No.28・No.23・No.25・No.22・No.24	日々の授業
第6因子	関係調整・指導力	No.35・No.36・No.39	授業外
第7因子	教授法・評価法	No.14・No.15	知識
第8因子	学生と授業のための情報収集能力	No.40・No.41	授業外
第9因子	異文化理解・適応	No.45・No.46・No.13	授業外/知識
第10因子	音声と表記知識の応用力	No.19・No.18・No.43	知識/授業外
第11因子	歴史と教科教育	No.5・No.9・No.8	知識
第12因子	言語に関する知識	No.12・No.1・No.11	知識
第13因子	文法	No.17	知識
第14因子	一般・国際知識	No.20・No.21	知識

* 「日々の授業」は「日々の授業を行うにおいて必要な能力」、「授業外」は「授業外において必要な能力」の略。

6-5-2. 結果の考察

- (1) 「海外」ではまず自身が海外にいるということもあって、語学力を含む、現地への理解、適応に関するものが第1因子に挙げられた。これは設定したカテゴリ別分類を超えた範囲と内容での結果解釈となった。「海外」では当然の結果であったと考える。
- (2) 第2因子はコースデザイン能力を含む、授業での運営能力となった。「日本国内」でもコースデザインは同様に第2因子であったが、それは教授法、評価法、習得理論などと共に挙げられており、この意味では「海外」での内容と違っていた。つまり、コースデザインのあり方は「日本国内」が知識重視の中、その他「知識」や理論と共に捉えられているのに対し、「海外」では授業運営に係る実際的な能力として捉えられていることがわかった。
- (3) 第3因子は「自分を知る」であった。これは「日本国内」と一致していた。しかし、「日本国内」が日本の法律知識を進学や学校との関連で挙げたのとは対照的に、「海外」での日本の法律とは、自身が海外で生活する上で必要なもの、もしくは、海外へ出て、自身に係るものとして必要になったと解釈できる。この意味では、この設問項目に対する解釈は、「日本国内」と「海外」では違っていた。尚、ここでの結果を見る限り、設問の表現が曖昧であったとも考えられる。
- (4) 第4因子は学習者理解、受容、トラブル対処などであった。「日本国内」でも同様に学習者を扱ったものはあったが、それは第1因子「学習者中心の授業運営能力」であった。同じよ

うに学習者を取り上げても、彼らへの指導、対応では考え方やあり方に違いがあるようである。

- (5) 第7因子の「教授法・評価法」は、「日本国内」ではそれが言語習得と共に第2因子の「授業・コース運営に関する理論」の中で挙げられていた。この2つの「知識」だけが「日本国内」と比較した場合、下位要因となった。
- (6) 言語習得は「日本国内」では第2因子の中にあり、「授業・コース運営に関する理解」との係りから出てきていたが、「海外」では第12因子で、心理学とコミュニケーションと共に挙げられていた。「日本国内」と「海外」では言語習得に対する考え方が違っているようである。
- (7) 上位に来た因子は、どれもがカテゴリー別分類では複数にまたがるものであった。その上で、「日本国内」と比較した場合、「海外」では「その他」も多かった。下位の因子を「日本国内」と比較した場合、カテゴリー別分類の範囲内に、要因数も少なくまとまっていたことがわかる。

6-6. 「全体」「日本国内」「海外」での結果考察の比較とまとめ

「全体」「日本国内」「海外」での結果を比較すると、次のような特徴が認められた。

- (1) 「日本国内」と「海外」では挙げられた項目内容に重なりはあったものの、全く同じというものはなかった。その上で、「海外」の方がより細分化しているものが多かったと言える。
- (2) 「日本国内」で第2因子としてまとまっていたものが、「海外」では下位の因子の中にあっただけのものがあった。それらは第2因子の「コースを運営していく上で必要な知識」、第7因子の「教授法・評価法に関する知識」などである。この意味では、「海外」では拡散していたと言える。他方、「海外」で第1因子であった「海外適応能力」は、「日本国内」では第4因子、及び、第10因子などに分かれており、違いが見られた。
- (3) 「日本国内」では「学習者中心の授業運営能力」を中心に、それを取り囲むように知識や技能が来ているように思われる。このあり方は現在の日本国内での日本語教員養成のあり方を反映しているようであった。
- (4) 「日本国内」では1人で授業を任されるというより、誰かとチームを組んで教育、指導に当たることが多い。「日本国内」での結果はこのような状況を反映していた。他方、「海外」では1人でゼロスタートの学生から教育、指導することが多い。ここでの結果からもそれが窺えた。
- (5) 「海外」の方が実践能力重視であることがわかり、自身の異文化理解や適応、語学能力の如何に係るという結果になった。
- (6) 「海外」では実践重視であるが、関係はどちらかと言えば教える能力が知識によって支えられ、その上で、知識よりは教えることに重きが置かれているようであった。授業についての考え方、教えることについての捉え方は、「日本国内」と「海外」では異なっていた。
- (7) 「海外」で1位だった外国語、海外経験などは、「日本国内」では4位に下がる。「海外」では異文化理解より異文化適応能力の方が必要で、異文化を理解する知識はあまり必要ない

という結果になった。「海外」では日々身をもって実体験しているわけであるから、この結果は当然のことと言える。「海外」で教育、指導に当たる場合、語学力をはじめ、現地理解や適応といったものは極めて重要な要素であることがわかる。

- (8) 「海外」で単独因子となり得ると考えられていた No. 17 の日本語の文法は、「日本国内」では第 9 因子、「海外」では第 13 因子であった。尚、「日本国内」では日本語の文法は表記や音声と共に挙げられていた¹⁰。日本語の文法の位置付けは「日本国内」と「海外」では違っているようである。
- (9) 自分について知ること、情報収集能力、日本語に関する知識は、「日本国内」と「海外」では共通していたものだったが、それ以外については微妙に異なっていたと言える。
- (10) 「日本国内」の第 1 因子を見る限り、学習者と授業は学習者を中心に、授業をいかに良くするかといった発想で捉えられていた。これに対し、「海外」では学習者に対して、いかに授業を効率良く行うかといった発想から捉えられているようであった。「日本国内」が学習者との接触の中で、彼らを理解し、指導しながら授業を考えていくのに対し、「海外」では学習者はあくまでも学習者で、それに対してどのように対応していくのが第一に考えられ、その上で授業は工夫するものと考えられていたのとは対照的であった。

6-7. カテゴリー別分類から見た結果考察のまとめ

カテゴリー別分類から改めて結果を見てみると、次のようなことが言えた。

「日本国内」ではさほどのずれはなかったものの、「海外」においてはずれが見られた。というより、それらは各カテゴリーにまたがって回答されたものが多かったと言える。この意味では、当初設定したようなカテゴリー別分類での区分やその間での関係性は、「全体」もしくは「日本国内」ではある程度当てはまっても、「海外」では異なる区分や関係があるように思われる。尚、これらのずれは「日本国内」と「海外」での外国や外国語への認識の違いとしても現れていたようである。

7. 総括

これまでを総括すると、次のようにまとめられるであろう。

- (1) 「日本国内」では「学習者」と「授業をより良くするための能力」は必要性が高く、かつ、この 2 つは切っても切れない関係のようであった。しかし、「海外」では学習者と授業に係るものはあくまでも対峙する形で、しかも必要とされる要因は「日本国内」よりは多くの因子群に分かれ、もしくは細分化される。その上で、まずは学習者への対応、次いで授業への工夫のようにはっきりしている。実際に授業を行うにしても、「日本国内」と「海外」ではこのように違うことがわかった。
- (2) 「日本国内」では授業を中心とした総合的な能力が求められているようであるが、「海外」ではあくまでも実践能力重視で、かつ日本語教師自身の異文化に対する能力も強く求められているようであった。これに加え、「海外」では「知識」と「教えること」は「知識」が「教

えること」を支えているといったような補完的な関係で捉えられているが、それ自体は実践能力の方に強く傾いている。つまり、「教えること > 知識」のようであった。

(3) 外国語と外国経験の有無は「海外」では第1因子であるが、「日本国内」では第4因子に下がる。「海外」では異文化理解能力というより、異文化適応能力が必要である。異文化を理解するというより、身をもって体験しなくてはならない環境にあるため、敢えて理解するというような知識は必要ないと回答されたと思われる。この意味では、「日本国内」で教える場合と、「日本国内」から海外へ教えに行く場合、海外で教える場合というように細分化して、能力や内容も考えておくべきではないかと考えられた。

(4) 評価法と教授法は「日本国内」では第2因子、「海外」では第7因子である。「日本国内」では他の要因と共に挙がっていたが、「海外」では単独だった。日本語の文法もこれに近いものがあった。このように、各知識や能力へのあり方は「日本国内」と「海外」では違いがあった。

(5) 「人間性」に係る部分はどの日本語教師でも同じように認識され、安定した要因であった。ところが、「質問票」での結果では、この「人間性」に係る部分で広く違いが出た。ということは、その扱いや理解のされ方に個人差が出たということである。いずれにしても、それ以外のものについては条件や要因が異なれば当然違いが出る。この意味では、実践能力の要因を考える場合、「人間性」については安定しているものとして、まずは別立てし、「知識」「技術（能力）」については、異なる条件下での各要因別に見ていくのがよいのではないかと考えられた。「人間性」について個人差が出ることは免れない。

8. 今後の実践能力を巡る研究の要因を考えていくための提言

以上、探索的ではあったが、「全体」「日本国内」「海外」別に、実践能力を規定する要因を見ていった。最後に、今後、実践能力を研究していく上で、どのように考えていくべきかについてまとめる。

ここでは実践能力を規定する要因を「全体」「日本国内」「海外」に分け見たが、そこには幾つかの違いや異なりが見られた。よって、今後、実践能力を検討していくためには、まずは「全体」「日本国内」「海外」のような異なる条件下で捉え直して見る必要があると、その上で、出てきた実践能力の要因はそれぞれの条件下で整理しておくことが肝要だと思われる。尚、一般的な分類での「知識」「技術（能力）」「人間性」において、「人間性」は異なる条件下で認識される、また、求められる能力としての内容に違いは少ない（他方で、個人差は出る）。つまり、「人間性」は共通した認識、もしくは一定したものと捉えられている。しかし、それ以外の「知識」「技術（能力）」は、異なる条件下で認識される、また、求められる実践能力としての内容には違いがある。まず「知識」「技術（能力）」については、その内容をできる限り詳細に列挙しておくと共に、どのくらい必要性があるのか、他方において、「知識」と「技術（能力）」の間には重複するような補完的な能力もあるので、これは何らかの方法で整理しておく必要があると考える。本調査での結果は今後のあり方を考えた時、示唆的であったと考える。また、実践能力を巡って研究をする場合の方向性も示したと思われるが、これをより精緻化させるためには、方法論の検討と同時に、

ここでの調査を継続させ、結果を再検討する必要があると思われる。また、国別データが揃った段階で、再度同様な分析を試み、その上で、重回帰分析なども行い、厳密な結果としたい。

*本研究は、日本学術振興会平成 16-17 年度科学研究費補助金（基盤研究(B)(1)）による「日本語教員養成における実践能力の育成と教育実習の理念に関する調査（課題番号：16320048 研究代表者：中川良雄）の一部として行った。本研究における調査では、アメリカをはじめ、中国、韓国、タイ、イタリア、ニュージーランド、マレーシアなど、多くの国々でご協力を頂いた。この紙面を借りて深く御礼申し上げる。

【注】

- ¹ 初年度における高木班のメンバーは、筆者 2 名の他、日本班が鈴木寛子・片野洋平、アメリカ班が広谷真紀・高宮優実であった。
- ² アメリカでの調査は、指導者（Faculty member: 大学において日本語教育に携わっている者）と TA（Teaching Assistant）に対し、質問紙調査、電話もしくはメールによるフォローアップインタビューで行った。予備調査 2004 年 11 月。本調査 2004 年 12 月から実施し、調査は現在も継続中である。2005 年 10 月での総回答数は 35 で、指導者からは 6、TA からは 29 の回答が得られている。
- ³ 調査対象者の属性に関する質問項目としては、次のようなものがある。「どのくらい日本語を教えているのか」「これまで、どのような日本語教育機関で、どのくらいの期間日本語を教えてきたか」「現在、どのレベルの学習者を教えているのか」「現在、どのような分野を教えているのか」「現在、週何時間くらい教えているのか」。これらは「関心項目」以外のものとして、「フェースシート」に収められた。
- ⁴ 調査に先立ち、「関心項目」は 2 つの目的から設定されていた。一つは予測値となるものである。「関心項目」の各項目を諸条件の違いとし、それによって実践能力は変わるだろうと予測したもので、これによって実践能力の要因を明らかにしようとした。もう一つは、「実習」と「日本語教員養成課程」の内容やあり方に係るもので、実態を明らかにすることを目的とした。本稿ではこの内、予測値となる「関心項目」に限って、結果をまとめている。
- ⁵ 本稿の著者 2 名と日本班の 2 名である。
- ⁶ ここではリスト化された設問項目を各要因と考えた。
- ⁷ SPSS12.0 for Windows を使用し、統計処理を行った。
- ⁸ この他、高木(2005a, 2005c)では次のようなことがわかっている。(1) カテゴリー別分類では「知識」より「日々の授業を行うにおいて必要な能力」の方が重要という結果になった。つまり、実際に教える場合には「日々の授業を行うにおいて必要な能力」が優先されるわけであるから、この能力を付けさせることが日本語教員養成においても優先されるはずである。(2)「関心項目」

に対する回答は「4. 経験年数」で違いが見られた。「経験年数」は「全体」で見た場合には3年と10年で違いが出た。「日本国内」では3年以上5年未満と10年以上15年未満で違いが見られた。

⁹ 「6. 対象者」も有意差が高かったものではあるが、6-2-1. を見てもわかるように、それを小学生・中学生・高校生までに分け、分析していくには数が少なすぎた。他方、「1. 国別」については、同様に、「国別」に分けて見るには各々の数は少なすぎるが、国内外として「全体」「日本国内」「海外」に分け、分析することはできた。そこで、2005年5月時点での分析方法として「全体」「日本国内」「海外」で見ることにした。この他、有意差が認められた「3. 実習の種類」と「8. 日本語教員養成機関」については、【注】⁴に記したように、「関心項目」ではそれらが「実習」と「日本語教員養成課程」の内容やあり方を検討するために設けられた項目であったため、ここでは対象から排除した。

¹⁰ 高木他(2005)におけるアメリカでは、日本語の文法は上位に来るものであった。また、日本文化もアメリカでは高かった。しかしながら、「海外」で見た日本文化はあまり高くない。これは今回の調査における「海外」で、その半数を占める中国での結果が影響したものと考えられる。つまり、今回の調査で対象となった中国での日本語教師には日本人が多く、彼等のほとんどが中国で会話を担当していた。このことと係ったと考えられる。

【参考文献】

- 中川良雄、坂口昌子、縫部義憲・渡部倫子・佐藤礼子、高木裕子・佐藤綾(2005)
「日本語教員養成における実践能力の育成と教育実習の理念に関する調査研究
—2004年度調査中間報告—」、『無差』第12号、京都外国語大学
- 佐藤綾(2005a)「現役日本語教師が必要とする知識と能力から見た実践能力」、『大養協第28回
大会シンポジウム』レジュメ(全pp.6)、大学日本語教師養成課程研究協議会
- 佐藤綾(2005b)「現役日本語教師が必要とする知識と能力から見た実践能力」、『2005年度 大養
協論集』、大学日本語教師養成課程研究協議会(印刷中)
- 佐藤綾(2006)「雇用形態別、日本語教育機関別に求められる知識と能力」、『日本学術振興会平成
16-17年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))「日本語教員養成における実践能
力の育成と教育実習の理念に関する調査」最終報告書』(課題番号:16320048 研究
代表者:中川良雄)、pp.139-148
- 高木 裕子(2005a)「日本語教育能力検定試験と実践能力の関係」、『大養協第27回大会シンポジ
ウム「日本語教育能力検定試験で実践能力が測れるのか」』レジュメ(全pp.7)、大
学日本語教師養成課程研究協議会
- 高木 裕子(2005b)「日本語教育能力検定試験と実践能力の関係」、『2005年度 大養協論集』、大
学日本語教師養成課程研究協議会(印刷中)
- 高木 裕子(2006)「日本語教育能力検定試験との係りで見えた実践能力」、『日本学術振興会平成

16-17年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))「日本語教員養成における実践能力の育成と教育実習の理念に関する調査」最終報告書』(課題番号:16320048 研究代表者:中川良雄)、pp.149-162

高木裕子・佐藤綾(2005)「日本語教師に求められる実践能力を規定する要因—調査票を用いた国際調査における2004年11月12日までの集計結果—」、『無差』第12号、pp.101-111

高木裕子・高宮優美(2005)「アメリカにおけるTAと指導者の実践能力に対する意識」、日本学術振興会平成16-17年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))「日本語教員養成における実践能力の育成と教育実習の理念に関する調査」最終報告書』(課題番号:16320048 研究代表者:中川良雄)、pp.163-170

高木裕子・広谷真紀・高宮優美(2005)「アメリカにおける日本語教師の実践能力育成に関する調査研究」“Survey Research on the Nurturing of Practical Skills for Teachers of Japanese in the US” ATJ 2005 SEMINER, (March 31, 2005: Chicago)

當作靖彦編(2003)『日本語教師の専門能力開発 アメリカの現状と日本への提言』、社団法人日本語教育学会

【巻末資料1】「質問票」における設問項目とカテゴリー名(右側太字ゴシック体部分)

1. 心理学に関する知識
2. 学習者の国の文化や習慣、考え方についての知識
3. 外国語に関する知識
4. 日本の法律に関する知識
5. 日本の学校の教科教育に関する知識
6. コンピューターに関する知識
7. 日本の社会や文化に関する知識
8. 日本や日本語教育の歴史に関する知識
9. 日本語の歴史的変遷に関する知識
10. 言語学に関する知識
11. コミュニケーションに関する知識
12. 言語習得に関する知識
13. 異文化理解に関する知識
14. 教授法に関する知識
15. 評価法に関する知識
16. コースデザインに関する知識
17. 日本語文法に関する知識
18. 音声に関する知識
19. 日本語表記に関する知識

20. 一般教養
21. 国際関係(協力)に関する知識 知 識
-
22. クラスをコントロールする能力
23. 授業を面白くする能力
24. 教材や教具を工夫し、活用する能力
25. 学習者の日本語能力を分析する能力
26. 学習者にとって必要な学習項目を選び出す能力
27. 学習者にとって必要な学習項目を適切に提示する能力
28. わかりやすく説明する能力
29. 学習者とのコミュニケーション能力
30. 様々な学習者に対応する能力
31. 教授／学習項目を分析する能力
32. 学習者を理解しようとする能力
33. 学習者を受容する能力 日々の授業を行うにおいて必要な能力
-
34. コース・デザイン能力
35. 教師同士のコミュニケーション能力
36. 人や組織と交渉する能力
37. 外国語の運用能力
38. トラブルへの対処能力
39. 進学のための指導能力
40. 学習者にとって必要な情報を収集する能力
41. よりよい授業を行うための情報を収集する能力
42. 授業を内省する能力
43. 日本語教育と関連分野を結びつけて、それを授業に応用する能力
44. 異文化適応能力
45. 異文化理解能力
46. ものごとを長期的な視点から見る能力 授業外において必要な能力
-
47. どの程度、自分にストレス耐性があるのかわかること
48. どの程度、自分に異文化適応能力があるのかわかること
49. 自分の思考・行動パターンを知らること
50. 日常生活における自己研鑽力
51. 海外居住経験
52. 外国語の学習経験
53. 教師としての役割の自覚 そ の 他
-

【巻末資料2】

「全体」の因子分析

項目番号	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7	因子8	因子9	因子10	因子11	因子12	共通性
問33	0.748	0.143	0.182	0.068	0.018	0.091	0.063	0.008	0.052	0.201	-0.08	0.086	0.687
問32	0.664	0.116	0.101	0.132	0.07	0.106	0.082	0.011	0.083	0.12	-0.026	0.164	0.553
問30	0.643	0.102	0.127	-0.006	0.114	0.101	0.15	0.022	0.127	0.086	-0.022	0.02	0.511
問29	0.638	0.076	0.051	0.1	0.103	0.095	0.042	0.016	0.024	0.107	0.032	0.02	0.46
問24	0.542	0.181	0.096	0.108	0.287	0.027	0.22	-0.002	0.056	0.037	0.343	0.032	0.602
問28	0.527	0.053	-0.041	0.067	0.243	-0.014	0.194	0.073	0.093	0.055	0.315	0.129	0.517
問23	0.503	0.162	0.091	0.053	0.074	0.057	0.084	0.03	0.094	-0.014	0.226	-0.029	0.368
問25	0.492	0.04	0.11	0.118	0.271	0.088	0.434	0.098	0.183	0.095	0.226	0.041	0.644
問35	0.472	0.172	0.132	0.043	0.029	0.385	0.036	0.044	0.235	0.005	0.025	0.159	0.504
問22	0.439	0.091	0.112	0.042	0.249	0.243	0.181	0.153	0.032	-0.077	0.261	-0.023	0.468
問42	0.413	0.197	0.12	0.1	0.231	0.09	0.221	0.076	0.236	0.091	0.011	0.107	0.426
問53	0.355	0.251	0.066	0.14	0.219	0.126	0.045	0.063	0.214	-0.057	0.127	0.049	0.35
問47	0.171	0.765	0.047	0.076	0	0.071	0.058	0.104	0.054	0.059	-0.042	0.011	0.651
問48	0.16	0.745	0.108	0.192	0.01	0.041	0.043	0.117	0.017	0.206	0.026	0.006	0.689
問49	0.146	0.634	0.178	0.105	0.033	0.076	0.069	0.128	0.159	0.106	0.071	0.064	0.539
問50	0.193	0.515	0.086	0.116	0.097	0.15	-0.007	0.04	0.122	-0.066	0.093	0.096	0.394
問11	0.181	0.14	0.602	0.078	0.089	0.15	0.153	0.062	0.117	0.118	0.082	0.114	0.526
問12	0.148	0.087	0.581	0.119	0.135	0.066	0.078	0.159	0.127	0.067	0.022	0.144	0.477
問10	0.043	0.109	0.532	0.219	0.314	0.081	0.146	0.225	0.063	0.072	-0.039	-0.115	0.546
問13	0.196	0.139	0.525	0.189	0.108	0.053	0.055	0.075	0.03	0.258	0.245	0.231	0.574
問14	0.252	0.103	0.446	0.103	0.252	0.322	-0.002	0.02	0.022	-0.016	0.095	-0.125	0.477
問52	0.145	0.143	0.04	0.689	0.16	0.029	0.077	0.078	0.007	0.068	0.111	0.077	0.581
問3	0.102	0.023	0.158	0.569	0	0.111	0.033	0.132	0.009	0.041	0.189	0.157	0.453
問37	0.149	0.091	0.136	0.569	0.05	0.187	-0.051	0.091	0.261	0.137	-0.019	-0.023	0.509
問51	0.036	0.278	0.1	0.564	0.043	0.066	0.052	0.07	0.015	0.141	-0.015	0.05	0.444
問19	0.24	0.006	0.053	0.076	0.683	0.079	0.122	0.158	0.126	0.07	-0.022	0.098	0.583
問18	0.22	0.043	0.26	0.078	0.621	0.118	0.129	0.085	0.075	0.047	-0.008	0.101	0.565
問17	0.301	0.015	0.157	0.092	0.582	0.11	0.085	0.099	0.007	-0.052	0.296	0.119	0.574
問16	0.183	0.094	0.289	0.182	0.25	0.611	0.251	0.131	-0.006	0.068	0.027	-0.002	0.68
問36	0.206	0.227	0.102	0.179	-0.016	0.529	-0.011	0.128	0.281	0.103	0.006	0.07	0.528
問34	0.226	0.063	0.216	0.208	0.199	0.52	0.345	0.042	0.075	0.048	-0.056	0.079	0.593
問15	0.228	0.149	0.35	0.115	0.356	0.441	0.099	0.112	0.048	0.061	0.061	-0.116	0.576
問26	0.309	0.042	0.158	0.043	0.133	0.124	0.747	0.016	0.095	0.047	0.139	0.151	0.768
問27	0.385	0.104	0.16	0.009	0.138	0.125	0.627	0.017	0.163	0.074	0.145	0.131	0.683
問31	0.348	0.161	0.028	0.133	0.283	0.328	0.413	0.045	0.119	-0.007	0.007	-0.089	0.548
問5	0.004	0.098	0.04	0.11	0.105	0.05	-0.074	0.625	0.12	0.003	0.078	0.107	0.465
問9	-0.008	0.044	0.246	0.299	0.123	0.019	0.094	0.592	0.006	-0.013	-0.092	-0.081	0.542
問4	0.062	0.099	0.062	-0.068	-0.055	0.097	0.074	0.538	0.127	0.105	0.041	0.19	0.392
問8	0.066	0.092	0.196	0.183	0.219	-0.005	0.01	0.492	-0.028	0.02	0.099	0.01	0.386
問40	0.255	0.08	0.212	0.159	0.045	0.014	0.138	0.087	0.603	0.042	0.021	0.051	0.539
問41	0.429	0.127	0.123	0.161	0.196	-0.049	0.242	0.037	0.443	-0.012	0.085	0.084	0.553
問39	0.058	0.159	-0.055	-0.058	0.045	0.234	0.011	0.4	0.438	-0.038	-0.013	0.077	0.451
問38	0.301	0.169	-0.064	0.058	0.061	0.216	0.044	0.203	0.402	0.213	0.033	0.034	0.429
問44	0.235	0.257	0.212	0.236	0.055	0.091	0.077	0.081	0.096	0.651	0.061	-0.003	0.683
問45	0.274	0.144	0.169	0.313	0.049	0.041	0.04	0.013	0.097	0.806	0.202	0.105	0.657
問2	0.196	0.071	0.164	0.28	-0.054	0.027	0.183	0.083	0.04	0.195	0.513	0.136	0.514
問7	0.181	0.043	0.202	0.218	0.227	0.004	0.134	0.163	0.031	0.177	0.43	0.185	0.47
問20	0.138	0.087	0.046	0.101	0.226	-0.025	0.082	0.087	0.055	0.062	0.212	0.586	0.5
問21	0.137	0.075	0.139	0.169	0.015	0.067	0.112	0.245	0.08	0.006	-0.018	0.492	0.398
固有値	5.3	2.728	2.612	2.521	2.438	2.078	2.057	2.045	1.703	1.347	1.312	1.135	
寄与率(%)	10.001	5.148	4.929	4.757	4.6	3.92	3.88	3.859	3.213	2.541	2.475	2.141	
累積寄与率(%)	10.001	15.148	20.077	24.834	29.434	33.354	37.235	41.094	44.307	46.848	49.323	51.463	

【巻末資料3】

「日本国内」の因子分析

項目番号	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7	因子8	因子9	因子10	因子11	共通性
問29	0.791	0.133	0.117	0.121	0.047	0.089	0.04	0.004	0.069	0.057	-0.033	0.693
問33	0.755	0.179	0.125	0.087	0.039	0.101	-0.002	0.032	-0.071	0.136	0.114	0.675
問30	0.706	0.174	0.081	-0.035	0.038	0.005	0.19	0.084	0.071	0.103	0.058	0.6
問28	0.666	-0.035	0.034	0.129	0.111	0.315	0.149	0.027	0.215	0.079	-0.06	0.68
問32	0.674	0.122	0.084	0.149	0.061	0.113	0.029	0.004	-0.005	0.017	0.145	0.537
問24	0.666	0.079	0.146	0.124	0.046	0.244	0.199	0.016	0.178	0.056	-0.061	0.627
問23	0.607	0.136	0.161	0.02	0.043	0.056	0.107	-0.046	0.071	0.076	-0.003	0.443
問25	0.567	0.122	0.049	0.109	0.086	0.173	0.453	0.088	0.252	0.13	0.116	0.695
問22	0.521	0.312	0.1	0.04	0.151	0.022	0.203	0.158	0.264	-0.097	-0.121	0.563
問41	0.496	0.04	0.127	0.158	0.167	0.159	0.206	0.083	0.197	0.08	0.325	0.542
問42	0.48	0.152	0.209	0.191	0.155	0.038	0.091	0.118	0.267	0.029	0.225	0.504
問35	0.468	0.297	0.23	0.087	0.197	0.157	0.175	-0.035	-0.049	0.026	0.143	0.486
問53	0.399	0.189	0.237	0.164	0.063	0.197	0.093	0.017	0.096	-0.068	0.043	0.346
問16	0.233	0.64	0.084	0.221	0.157	-0.01	0.303	0.125	0.239	-0.065	-0.095	0.722
問15	0.301	0.573	0.101	0.189	0.121	0.002	0.131	0.169	0.257	0.044	-0.033	0.595
問14	0.278	0.57	0.083	0.076	0.058	0.117	0.005	0.051	0.124	0.102	-0.065	0.464
問12	0.114	0.511	0.119	0.087	0.128	0.266	0.003	0.138	0.088	0.222	0.178	0.491
問34	0.274	0.508	0.034	0.257	0.162	0.01	0.334	0.009	0.245	0.029	0.052	0.602
問11	0.17	0.508	0.1	0.072	0.046	0.237	0.125	0.13	0.077	0.294	0.164	0.512
問10	0.11	0.463	0.092	0.208	-0.004	0.071	0.085	0.376	0.17	0.277	0.15	0.559
問36	0.159	0.462	0.239	0.303	0.357	0.036	0.211	-0.059	-0.142	0.008	0.013	0.585
問1	0.045	0.449	0.166	0.021	0.138	0.079	-0.057	0.164	-0.162	-0.077	0.088	0.327
問47	0.179	0.074	0.757	0.112	0.107	-0.019	0.059	0.048	0.022	0.034	0.022	0.643
問48	0.155	0.046	0.742	0.214	0.078	0.022	0.001	0.138	0.059	0.181	-0.004	0.684
問49	0.147	0.15	0.683	0.093	0.165	0.139	0.108	0.048	-0.004	0.117	0.079	0.6
問50	0.259	0.253	0.549	0.106	0.096	0.158	0.002	0.006	0.01	-0.181	-0.006	0.511
問52	0.219	0.093	0.143	0.638	-0.014	0.094	0.052	0.179	0.2	-0.013	0.051	0.568
問37	0.082	0.155	0.117	0.607	0.137	0.099	0.053	0.089	0.02	0.221	0.083	0.509
問51	0.068	0.103	0.31	0.542	0.014	0.05	0.015	0.048	0.018	0.148	-0.042	0.435
問3	0.166	0.212	0.031	0.473	0.051	0.269	0.002	0.186	0.067	-0.112	0.13	0.441
問39	0.062	0.121	0.145	-0.012	0.675	-0.045	0.11	0.031	0.146	0.087	0.062	0.543
問4	0.07	0.09	0.028	-0.034	0.633	0.137	-0.067	0.243	-0.03	-0.003	0.036	0.5
問5	-0.005	0.088	0.102	0.144	0.52	0.182	-0.076	0.314	0.132	-0.051	-0.009	0.467
問38	0.278	0.101	0.177	0.23	0.439	0.088	0.256	-0.029	-0.062	0.176	-0.068	0.477
問46	0.194	0.142	0.301	0.124	0.407	0.206	0.142	-0.022	-0.014	0.132	0.211	0.454
問7	0.248	0.116	0.013	0.154	0.059	0.578	0.16	0.198	0.101	0.12	-0.105	0.538
問20	0.176	0.055	0.119	0.07	0.142	0.545	0.118	-0.003	0.18	-0.081	0.192	0.46
問13	0.16	0.396	0.089	0.109	0.028	0.529	0.009	0.123	0.122	0.325	0.027	0.619
問2	0.317	0.072	0.089	0.157	0.124	0.461	0.131	0.071	0.019	0.066	0.003	0.393
問26	0.44	0.113	0.041	0.015	0.029	0.289	0.698	0.071	0.083	0.047	0.094	0.803
問27	0.474	0.135	0.081	-0.026	0.079	0.22	0.619	0.066	0.038	0.073	0.085	0.706
問31	0.406	0.239	0.172	0.188	0.08	0.029	0.49	0.025	0.181	-0.05	-0.034	0.572
問9	-0.029	0.207	0.088	0.196	0.188	0.022	0.086	0.73	0.098	0.078	0.088	0.689
問8	0.067	0.172	0.065	0.126	0.184	0.214	0.011	0.598	0.067	0.012	-0.046	0.498
問17	0.421	0.201	0.031	0.069	0.113	0.355	0.165	0.126	0.543	0.045	-0.136	0.721
問19	0.356	0.167	-0.013	0.148	0.106	0.2	0.094	0.137	0.532	0.078	0.089	0.552
問18	0.262	0.332	0.059	0.124	0.047	0.25	0.104	0.124	0.498	0.034	0.16	0.563
問44	0.284	0.187	0.233	0.23	0.177	0.059	0.073	0.074	0.052	0.559	0.039	0.585
問45	0.316	0.154	0.098	0.339	0.132	0.24	0.018	0.029	0.015	0.395	0.027	0.481
問40	0.292	0.124	0.017	0.192	0.396	0.044	0.156	-0.022	0.071	0.186	0.412	0.53
固有値	7.121	3.801	2.829	2.495	2.487	2.387	2.198	1.7	1.689	1.245	0.867	
寄与率(%)	13.436	7.172	5.338	4.708	4.692	4.504	4.146	3.208	3.186	2.349	1.636	
累積寄与率(%)	13.436	20.609	25.947	30.655	35.347	39.851	43.997	47.206	50.392	52.741	54.377	

【巻末資料4】

「海外」の因子分析

項目番号	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7	因子8	因子9	因子10	因子11	因子12	因子13	因子14	共通性
問52	0.766	0.108	0.129	0.062	0.081	-0.066	0.009	0.002	0.111	-0.062	0.114	-0.205	0.23	0.116	0.770
問3	0.878	-0.008	0.019	-0.015	0.027	0.097	0.037	0.083	0.061	-0.082	0.095	0.145	-0.058	0.067	0.525
問2	0.805	0.105	0.142	-0.123	0.28	-0.013	0.053	-0.033	0.248	-0.084	-0.117	0.269	-0.18	0.085	0.689
問51	0.803	0.145	0.156	0.127	-0.113	-0.043	0.092	0.061	-0.007	0.074	0.194	0.101	0.07	0.197	0.549
問37	0.537	0.16	0.011	0.357	0.038	0.369	0.102	0.142	-0.111	-0.033	0.125	0.056	0.026	-0.131	0.660
問44	0.499	0.038	0.373	0.384	0.083	-0.078	0.073	-0.064	0.41	0.043	-0.063	0.17	-0.193	0.015	0.800
問6	0.384	0.03	-0.128	-0.094	0.094	0.089	-0.075	-0.048	-0.069	0.244	0.098	0.223	0.164	0.376	0.490
問7	0.357	0.102	0.112	0.032	0.342	0.01	0.033	0.02	0.263	0.191	0.16	0.23	0.007	0.215	0.500
問34	0.153	0.711	0.128	0.063	0.052	0.294	0.13	-0.036	0.055	-0.049	-0.018	0.021	0.044	-0.02	0.665
問26	0.111	0.663	0.039	0.063	0.221	-0.095	0.052	0.208	0.075	0.178	-0.023	0.202	0.033	0.098	0.651
問31	0.012	0.557	0.037	0.274	0.087	0.066	0.18	0.109	-0.005	0.259	0.162	-0.077	0.082	-0.298	0.638
問16	0.179	0.524	0.112	0.122	0.045	0.237	0.399	0.007	0.082	0.006	0.042	0.196	-0.121	0.034	0.614
問27	0.076	0.522	0.111	0.123	0.271	-0.052	0.233	0.312	0.269	0.227	-0.072	0.092	-0.059	0.218	0.722
問42	-0.025	0.371	0.115	0.28	0.217	0.098	-0.149	0.341	0.274	0.224	-0.028	0.092	0.102	-0.018	0.569
問47	0.025	0.039	0.770	0.124	0.101	0.106	0.111	0.072	-0.006	0.006	0.023	0.01	-0.086	0.064	0.671
問48	0.199	0.034	0.767	0.166	0.129	0.105	0.182	0.112	0.126	0.011	-0.005	0.108	-0.098	0.034	0.769
問49	0.123	0.154	0.502	0.201	0.098	0.033	0.067	0.069	0.253	-0.017	0.251	0.026	0.11	-0.069	0.496
問50	0.102	0.09	0.444	0.068	-0.105	0.077	-0.098	0.286	0.144	0.15	0.015	-0.126	0.036	-0.017	0.390
問4	0.14	0.145	0.428	-0.091	0.031	0.057	-0.057	-0.009	0.017	0.204	0.304	0.131	-0.001	0.036	0.392
問30	0.017	0.089	0.167		0.635	0.112	0.195	0.035	0.154	-0.045	0.138	-0.039	0.12	0.031	0.087
問33	0.056	0.201	0.231		0.625	0.052	0.229	0.029	0.106	0.246	0.013	-0.084	0.073	0.084	-0.019
問32	0.045	0.225	0.181		0.49	0.161	0.349	-0.069	0.083	0.462	-0.021	0.044	0.015	0.138	0.067
問29	0.091	0.024	0.006		0.49	0.096	0.023	0.161	0.03	0.038	-0.04	0.031	-0.058	-0.011	0.027
問38	0.002	0.013	0.131		0.432	0.079	0.269	-0.085	0.245	0.062	0.326	0.157	-0.056	-0.189	-0.029
問28	0.043	0.104	0.052	0.124	0.69	0.021	0.061	0.08	-0.078	0.109	0.022	-0.056	-0.077	0.139	0.564
問23	0.04	-0.049	0.086	0.149	0.541	0.111	0.103	0.136	0.063	-0.115	0.21	0.055	0.073	0.001	0.438
問25	0.159	0.254	0.004	0.202	0.507	0.037	0.121	0.189	0.178	0.206	0.137	0.122	0.026	0.109	0.559
問22	0.021	0.163	0.034	-0.005	0.496	0.168	-0.069	0.058	0.181	0.051	-0.091	0.195	0.161	0.012	0.418
問24	0.188	0.192	0.237	0.067	0.492	-0.052	0.125	0.041	0.113	0.231	-0.151	0.093	0.404	0.014	0.655
問35	-0.012	0.158	0.058	0.216	0.092	0.784	0.245	0.127	0.097	-0.05	-0.011	-0.028	0.117	0.056	0.729
問36	0.086	0.042	0.118	0.315	0.098	0.702	0.031	0.054	0.058	0.159	-0.003	0.119	-0.143	0.024	0.692
問39	-0.021	0.074	0.222	-0.1	0.034	0.477	-0.068	0.184	-0.138	0.073	0.382	-0.249	0.058	-0.067	0.573
問14	0.13	0.177	0.052	0.206	0.11	0.038	0.707	0.077	-0.067	0.09	0.023	0.087	0.216	-0.146	0.701
問15	0.002	0.251	0.19	0.073	0.11	0.202	0.592	-0.043	0.113	0.2	0.015	0.083	0.088	-0.015	0.706
問40	0.111	0.054	0.22	0.123	0.145	0.081	0.172	0.812	-0.073	0.02	0.033	0.101	-0.103	0.056	0.826
問41	0.044	0.194	0.068	0.192	0.206	0.182	-0.09	0.617	0.099	0.145	-0.032	0.013	0.088	0.006	0.586
問45	0.533	0.002	0.261	0.317	0.174	-0.059	-0.037	0.051	0.564	0.04	-0.088	0.077	-0.071	-0.024	0.829
問46	0.218	0.269	0.182	0.048	0.096	0.111	0.103	0.004	0.493	-0.028	0.049	0.01	0.07	0.086	0.436
問13	0.348	0.111	0.316	0.212	0.131	0.017	0.124	0.208	0.357	-0.138	0.024	0.323	0.186	0.096	0.649
問19	-0.039	0.142	0.048	-0.027	0.042	0.134	0.195	0.118	-0.119	0.641	0.072	-0.061	0.213	0.077	0.582
問18	-0.093	0.244	-0.049	0.272	0.134	-0.074	0.231	-0.011	0.008	0.521	0.065	0.105	0.364	0.002	0.641
問43	-0.162	0.019	0.244	0.071	0.211	-0.003	0.033	0.185	0.21	0.385	0.043	0.038	-0.004	0.02	0.367
問5	0.057	-0.065	0.167	0.067	0.122	0.018	-0.239	-0.149	-0.166	0.147	0.864	0.173	0.026	0.099	0.665
問9	0.15	0.077	-0.021	-0.002	-0.024	0.062	0.076	0.034	0.018	-0.043	0.573	0.103	-0.073	0.035	0.388
問8	0.096	-0.103	0.107	-0.002	0.131	-0.057	0.296	0.093	0.258	0.147	0.557	-0.125	0.143	0.033	0.584
問1	0.223	0.085	0.015	-0.037	0.123	0.032	0.071	-0.004	-0.018	0.04	0.115	0.594	-0.028	-0.115	0.462
問11	0.012	0.333	0.319	0.165	0.092	0.024	0.097	0.138	0.228	-0.176	0.027	0.49	0.205	0.126	0.659
問12	0.096	0.181	0.039	0.293	0.065	-0.139	0.123	0.144	0.064	0.031	0.19	0.427	0.259	0.186	0.515
問17	0.03	-0.003	-0.096	-0.003	0.064	0.043	0.124	-0.01	0.027	0.157	0.007	0.038	0.584	0.06	0.403
問20	0.188	-0.059	0.062	0.076	0.158	-0.031	-0.036	0.02	0.136	0.071	0.035	-0.062	0.041	0.757	0.694
問21	0.304	0.245	0.063	0.084	0.083	0.088	-0.111	0.075	-0.112	-0.117	0.174	-0.003	0.054	0.417	0.429
固有値	3.585	3.004	2.966	2.764	2.418	2.245	1.981	1.972	1.968	1.88	1.865	1.65	1.394	1.384	
寄与率(%)	6.765	5.669	5.597	5.215	4.562	4.235	3.737	3.72	3.714	3.546	3.519	3.113	2.63	2.611	
累積寄与率(%)	6.765	12.433	18.03	23.246	27.808	32.043	35.781	39.501	43.214	46.76	50.279	53.392	56.022	58.633	